

遊女おかめの人柱と「お亀銀杏」



昔、亀山八幡宮の丘は、潮の干満により陸続きとなったり、島になったりする海岸でしたが、ここに船着場をつくることになりました。しかし、工事が難航したため人身御供の人柱募集の触れを出したところ、申し出たのは天然痘を患って顔にあばたのある「おかめ」という遊女だけでした。

美しい月明かりの夜、多くの人を見守る中、おかめが海に身を沈めると工事は着々と進み完工となったということです。人々はおかめの供養のため銀杏の木（現在の樹は2代目）を植え、菩提を弔いました。いつの頃からか八丁浜踊りのお囃子で、“えらいやっちゃ”と讃えられるようになったのはこのおかめさんのことです。